

活動写真

職業訓練校



理容美容コースでは、年間約45名の障害者が技術を身につけ卒業し、ほぼ全員が就労する。
コース主任ミヤー・モウは、職業訓練校卒業生でもある（ヤンゴン、2010年12月7日撮影）



職業訓練校では、訓練生一人ひとりの障害に配慮し、教材やミシンなどの器具が使いやすいように工夫している（ヤンゴン、2010年12月7日撮影）



2010 年に開講したコンピューターコースは、隻腕など、これまで受け入れることが難しかった障害をもつ障害者の受け入れを可能にしただけではなく、公務員の 3 倍もの給与を得る訓練生も現れ、高収入に結び付くコースとして展望が開けてきた（ヤンゴン、2010 年 12 月 7 日撮影）



訓練校周辺や寺院の掃除などの社会奉仕活動を通して、地域社会への貢献を行い、また、地域住民の障害への理解を深めている（ヤンゴン、2010 年 3 月 11 日撮影）



訓練生はミャンマー全国から集まり、3ヶ月の共同生活を通して社会性と協調性を身につけている（ヤンゴン、2011年1月18日撮影）



（ヤンゴン、2010年6月22日撮影）



（ヤンゴン、2011年1月20日撮影）

開校から10年経った今、校舎の老朽化が進み、2010年には給水が倒壊し、壁の至るところに亀裂が生じ、訓練生や職員の健康や安全が危ぶまれるようになっている

地域における就労支援活動



全身の痙攣状態が続く障害者ではあるが、当会が生計支援活動として供与した豚を育て収入を得ている（シュエピター、2011年1月22日撮影）



貸本屋を開業した脳性マヒの女性は、予想を上回る顧客の数に店舗運営の自信をつけている。「今後は家族を支えたい」と意気込む（ダラー、2011年1月14日撮影）



障害者自助団体の会合では、就労や就学、地域の水不足など団体員が抱えている幅広い問題について協議し、行動計画を立てる（ダラー、2011年3月10日撮影）



当会では、障害者自助団体の運営力や組織力を高めるため、定期的に研修を提供している（ヤンゴン、2010年9月21日撮影）

地域における就学支援活動



車イスを利用する障害児が使用できるように建設したトイレ（ダラー、2010年12月14日撮影）



学校と地域住民の協働のもと作られたスロープ（ダラー、2010年12月14日撮影）



ぬかるみの道を、父親が車イスを押して娘を学校に通わせている姿を地域住民は不憫に思っていた。当会が舗装道路の発起人になり、地域住民の協働を得て、長さ 800 メートルの舗装された通学路が完成した(シュエピター、2010 年 12 月 16 日撮影)



舗装された通学路を通って登校した障害を持つ女子児童。「将来の夢は何ですか」という質問に、親友は「学校の先生」と答えたが、彼女は、「学校をきちんと卒業すること」と言った。障害児にとって、教育の機会は重要であり貴重である(シュエピター、2010 年 12 月 16 日撮影)



数少ない聾学校に通学を希望する聴覚障害をもつ男子児童。通学費が支払えないので、家族や幼なじみの友人を離れて学寮に住む予定(シュエピター、2010年12月16日撮影)



両親がタイに出稼ぎに行き、行方不明になったため、83歳の祖母と11歳の妹と暮らす脳性マヒをもつ14歳の障害女子児童。1日の食事は1回。妹が通学を諦め、働き始めようとしたところに、当会職員が個人的に里親になり、彼女は通学し続けることができるようになった(シュエピター、2010年12月16日撮影)

啓発活動



障害児の学校教育の重要性について、地方行政関連者や学校関係者に定期的に啓発活動を行っている(ヤンゴン、2010年8月5日撮影)



第2回全国障害者ネットワーク会議を2011年1月10日-14日に開催した。社会福祉省、保健省、教育省など7つの政府機関、8の国際NGO、27の国内NGO、21の自助組織が参加し、それぞれの活動成果、課題などを共有し、協働・連携を強化した。アジア太平洋障害者センター長と国際協力機構(JICA)の専門家を招待し、国際会議の様子を呈した(ヤンゴン、2010年1月13日撮影)